



茅葺屋根

旧本田家住宅は昭和 40 年に茅葺き屋根の上から赤いトタン屋根を被せる改修工事をしました。今回の解体調査によりトタン下の茅葺屋根の下部に麦、上部に山茅が使われていたことを確認しました。屋根の棟の部分は改修時に取り払われていましたが、古い写真や新聞記事()から芝棟であったことが分かります。芝棟は茅葺屋根の頂部に土を厚くのせ、芝やユリ科の多年草などを植え込んで根付かせ、根で土を抑える棟仕舞いです。当時の本田家住宅の芝棟ではハナショウブが植えられていました。ハナショウブの根が張ることで棟が補強されるので、花が咲き誇る美しい風景は丈夫な屋根の証でした。昭和 40 年頃と思われる新聞記事によると、昭和の初め頃まで、谷保村の甲州街道沿いには「芝棟」にショウブの花が咲く家がズラリと並んでいたそうです。



昭和 39 年頃の旧本田家住宅

新聞記事：本田家の芝棟が掲載された朝日新聞の切り抜きがスクラップして本田家旧蔵資料に残されています。

* 調査員コラム * その1 本田家資料の調査について

「資料って？お宝のこと？」「本田家には、どんなお宝があるの？」そんな声が聞こえてきそうです。現在までの基礎調査で、多岐にわたる約 7 万点の資料が確認されました。

第 15 代当主本田定弘氏逝去のあと、奥様であるヤエ氏が江戸時代からの家屋に住まれて、その状態のまま残されていました。

国立きっての名家である本田家には、貴重な資料が所蔵されていることは知られていました。過去、国立市史編纂のためにくにたち中央図書館による調査が行われましたが、江戸時代の古文書や和漢籍にとどまっていた。

しかし、平成 23 年から始まった基礎調査では、残された全てのものを 1 点ずつ調べました。生活道具から美術品まで、江戸時代から平成時代に至る本田家代々の暮らしの歴史が残された資料から伺えます。馬医者、人医、名主、文人関係資料。江戸時代から多趣味な歴代を表すかのように、書、篆刻、文芸、園芸、写真と多彩でどの分野も一級資料が揃います。新選組関係、自由民権運動関係、国立大学町関係と、とどまることを知りません。

今回までに行われたのは基礎調査にあたります。これ以降分野ごとの詳細な本格的調査によって資料の対外的な評価が固まり、皆さんに閲覧できる日が待たれます。



調査員による資料調査の様子